

江戸城かわら版

認定NPO法人江戸城天守を再建する会

令和7年1月10日



CONTENTS

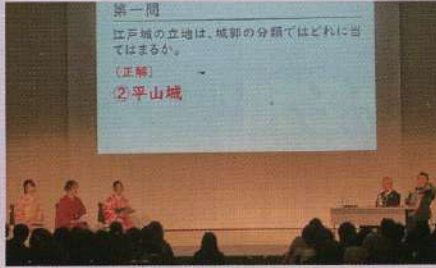
- 1 お城エキスポ二四の当会企画に注目集まる
- 2 お城エキスポ二四に多彩な企画を、一気投入
- 3 世田谷ポロ市にて署名集めが大成功等
- 4 二〇周年記念アンケート「会員のお考え」
- 5 総会・二〇周年懇親会・シンポジウム等
- 6 竹下大学「江戸時代の果物」②カンキツ
- 7 黒田源「江戸東京の災害遺跡をたどる」⑥
- 8 三浦正幸「名城の天守」⑩高松城天守
- 11 三浦正幸のひろば / 事務局からのお知らせ

お城EXPO三大発表(その二)

当会がエキスポ会場三階のホールにて21日午後15時に実施したステージイベント「江戸城クイズ」に二八〇名以上が詰めかけ



「江戸城クイズ」ポスター



舞台上に道灌公子孫が登場

お城エキスポは年末に開催されるお城好きのためのイベント。請問署名数と御城印の販売数において好結果をもたらし、

ステージイベントとして「江戸城クイズ」を実施。「江戸城クイズ」には、太田道灌公第一八代子孫である太田資曉氏をメインゲストにお呼びして、道灌公に関わる選りすぐりの出題(問題作成 塚本理事)をしました。

エキスポ当日の直前告知活動が功を奏して約二八〇名以上が足を運んでくれました。当会では昨年からの若い世代への普及を担うアンバサダー制度を採用しております。この後、五月まで当会のイベントなどで活躍する予定。

お城EXPO三大発表(その一) 日本最大級の江戸城天守軸組模型を初公開



中央工学校模型制作チーム

昨年は若い世代の活躍に助けられました。今回の展示ブースの目玉はもちろん三浦正幸先生がまとめ上げた「寛永度天守 復元調査研究報告書」に基づく寛永度江戸城天守軸組模型の完成です。これは、中央工学校(東京都北区)の建築倶楽部がおよそ一年間のサークル活動の成果として作り上げたものです。

ステージでは渡邊友尚氏(指導教官)と所属学生が壇上に向かって、学生代表から模型完成の宣言がありました。こわれやすい模型

です。三階ステージ舞台への移動はできませんでしたが、学生代表が江戸城ブースへ行って作品をご覧になってほしいとアピールしてくれました。

また、左右二〇センチ、奥行き一〇センチ、高さ一二五センチの総檜作りの巨大模型は、クラウドファンディング支援者とのお約束通り、組み立て式のアクリルケースを有有限会社ナンキ化成の工夫の元を実現することができました。



特製ケースに入れた軸組模型

両日とも一〇名前後の学生さんが当会ブースの模型前で説明員を買って出てくださいました。



お城EXPO三大発表(その三)

お城好きの健康散歩が生み出す歩数を、江戸城天守再建活動への寄付金に変えるスマートフォン・アプリがリリース

今すぐダウンロード

<https://edojo-walkers.jp/>

App Store | Google Play



江戸城再建アプリの画面

お城好き好きの方は「日本一〇〇名城」の城巡りを趣味にしておられるように、趣味と健康管理を兼ねて城郭散策を楽しんでおられます。現在四周年目です。〇〇万ダウンロードを超えるポイント活用アプリ「トリマ」を提供している株式会社ジオテクノロジーズが、お城散策から入手したポイントで、リアルな江戸城天守再建活動に寄付する仕組みを実現しました。アプリ「江戸城再建 WALKER」のダウンロードをお願いします。

第二期江戸城アンバサダー活動開始

若者に当会の活動を理解してもらうための支援をお願いする「江戸城アンバサダー」第二期のメンバー3名が、お城 EXPO から活動を開始しました。向かって左から、naotoさん、くろあやさん、めぐみさんです。



当会単独イベントを終えて、3階から1階展示ホールへ戻ったタイミングで



軸組模型の前には常に中央工学校建築倶楽部の学生さんの姿が。自主的に説明員を引き受けてくれました



城郭再建団体は活動資金の不足に悩んでいることがめずらしくなく、一方、城郭愛好家は手軽に寄付が出来たら協力したいと思っています。「江戸城再建 WALKERS」はその隙間を埋めるアプリ。当会ブース前でインストールを案内しました。

**当アプリを入れたスマホを持ち歩くと
日々の歩数を記録／歩数の合計値が寄付金を創出**



「江戸城再建 WALKERS」のインストールをお手伝い



江戸城クイズ③(かわら版第73号9頁)の解答

出題: 当会理事・塚本一夫

[1] 明暦の大火で焼失する前の寛永度天守が描かれているとされるのは次のどれか。

⇒(ウ) 武州豊嶋郡江戸庄図…現存するのは写図だが、江戸図としては最古、寛永9年(1632)の刊行。

[2] 江戸城内で大名や旗本に、茶の給仕など身の世話をした者達の役職はどれか。

⇒(イ) 御坊主…文政4年(1821)の「武鑑」には454人も名前が確認出来る。剃髪で従事する幕臣で、特定の寺院に属する僧侶ではない。

[3] 將軍家の慶事の際は、町人達も、本丸御殿大広間南庭で催される能に招待されることがあった。これを何と言ったか。

⇒(ウ) 町人能…本丸御殿大書院の南庭で、式能の初日の午前午後に分かれて、5000人余りが見学した。

[4] 5代綱吉は、鷹狩を禁止したが、それまで飼育した鷹をどうしたか。⇒(エ) 伊豆七島新島に放した…鷹狩が本格的に復活するのは8代吉宗から。因みに、鶴は朝廷に献上した。

[5] 徳川將軍でカステラ・羊羹など甘い物に目がなく、30本もの虫歯に悩んだのは誰か。

⇒(エ) 14代家茂…昭和33年(1956)芝増上寺霊廟の学術調査で明らかに。虫歯に依る栄養失調で脚気に成り、満20歳で逝去している



長谷川進氏が軸組模型と同じ縮尺で作った外観復元模型を隣にならべました



江戸城寛永度天守軸組模型向かって右側の角が欠けているのは模型内部をよく見るためにあえてそうしたためです





世田谷区のボロ市に初参加したところ署名大成功 (12/15,12/16)



神田古本まつりは昨年11日間の長丁場 (10/25 から11/4)



東御苑江戸城跡散策ツアー (11/16)



名城巡り (11/9 小田原城・石垣山城)



黒田涼出版記念講演会 (11/24)

江戸の歴史散策シリーズ1 黒田涼 出版記念講演会

昨年一月二四日、江戸歩き案内人・作家・黒田涼先生七冊目の著書「日本百城下町ゆつたり街さんぽ」出版を記念して講演会&食事会が開催されて、二〇名が参加しました。

会場は港区青山の、有名な日高シェフの店「リストランテ・アクアパッツァ」。冒頭、先生から「日本は城下町できていて。都道府県庁所在地の4分の3は城下町である！」という目からウロコのお話をいただきました。いちばん古い城下町は山口市！なんと！なんですか？の連続でした。

(会員・平林冬弓記)

セントラル総合サービス株式会社



『信頼』・『実績』・『愛情』
お客様の財産を守る
警備会社。

- 常駐警備
- 施設警備
- 臨時警備
- etc.) コンパニオン、案内業務



CENTRAL S.S. CO., LTD. TEL : 03-3265-0731

セントラル総合サービス株式会社 URL : www.central-sogo.co.jp

住所：東京都千代田区飯田橋1-5-9 精文館ビル



20周年記念アンケート「会員はこう考えている」

加入歴の長い会員の強固な願いに支えられて今日までやって来ました

会員アンケートを行った理由

平成 16 (2004) 年 12 月 11 日、任意団体「江戸城天守を目指す会」が設立されました。当会は 2024 年、任意団体設立から 20 周年を迎えます。この 2 年後の 3 月に東京都の認証を得て NPO 法人に衣替えしました。

そして平成 25 (2013) 年 7 月、「江戸城再建を目指す会」を「江戸城天守を再建する会」に名称変更しました。

会員アンケートを行ったのは、当会を発足から知っておられる会員の声を保存したかったからです。会員

歴の長さを元に回答を整理したかったので、設問に会員継続年数を入れて自己申告していただきました。

メールアドレスを登録している方々およそ 600 名(全会員のほぼ半数)へ昨年 9 月 2 日、Eメールでアンケートをお送りしました。その時点で得られた 38 名からの回答による速報をかわら版前号の 73 号に掲載しました。

そしてメール未登録の方にかわら版前号にアンケート用紙を同封したところ 41 名から回答をいただきました。そして、累計 79 名に対する全体の集計を当号に掲載しました。

アンケート回答者のプロフィール

アンケート回答者のプロフィールは以下の通りです。約 6.5 パーセントの方から回答をいただきました。

- 回答者数 (79 名・うち女性 6 名)
- 回答 (最年長 91 歳、最年少 26 歳、平均 76 歳)

回答者中、37 名 (47 パーセント) が会員歴 8 年以上の方でした。会員歴が長い方ほどアンケートに対して協力的だったと言えます。なお、回答者の平均年齢が 76 歳でしたが、これも実態より若干高めに出ているのでしょうか。

天守の築城の希望時期は？ 死ぬまでに見たい

まず全員に「江戸城天守築城はいつ頃までに実現してほしいですか」と尋ねたところ、ました。([表 1] 築城実現希望時期を参照)

回答を時期の早い順に並べますと急に「2030 年」で立ち上がりました。「できるだけ早く」というお答も比較的多いので、それとの気持ちのつながりを感じます。「2040 年」には、日本橋エリアの首都高が地下に潜る時期にそろえて実現させる希望を持つ方が含まれているかもしれません。

会員の継続理由とは？ 日本と日本人のために 天守築城を見届けたい

「およそ 10 年以上会員を継続している方」に「長く会員を継続した理由」を尋ねたところ、23 名から回答をいただきました。([表 2] 会員を継続した理由を参照)

やはり、会員の皆様の想いが強く、必要なことからあきらめなければ実現するという信念を感じる回答が並びました。20 年間、20 年間地道に粘り強く継続してきたこの運動が、昨年末のお城 EXPO で当会イベント会場に若者が詰めかけてくれたことを見て、当会運動に新しい波が来ていると思われました。

[表 1] 築城実現希望時間

	回答数
できるだけ早期	16
3 年後	2
5 年以内	2
2030 年	15
10 年以内	7
10 年後	7
2040 年	12
2050 年	6
未記入/なし	7
合計	74

[表 2] 会員を継続した理由

	回答数
若い頃からの夢なので/必ず再建できると思うので	2
一日でも早く天守再建を実現したいから	4
入会時から時間がかかることを承知していたので	1
趣旨に賛同/是非実現させたい/共感と使命感から	3
簡単に実現できないことがわかっているから	1
江戸東京の建築文化のすばらしさを引き継ぎたい	3
木造建築のすばらしさを江戸城天守で再現したい	1
日本のよりよい未来が始まる/国民が幸せになる	2
江戸城天守再建活動が他にないから	1
都心都民の力の結集を続けることができるか課題	3
夢を実現したいから	6
先輩会員に頼まれて入会したので継続している	4
私が亡くなる前に動きがあるのか興味がある	3
無記入/わからない	4
合計	38

創立20周年記念総会 (令和7年度通常総会)・江戸城文化交流会のお知らせ 講演会&懇親会も20周年記念仕様で開催

【総会】 13:00 ~ 15:50

日時: 2025年3月8日(土) 会場: プレスセンター
ビル10階 ホールA

[13:00] 受付開始 [13:20] 総会開始

[14:50] 総会終了

<懇親会> (会場: 同ビル10F「レストランアラスカ」

17:00 ~ 懇親会演奏 MONA MUSIC ミニコン
サート&パーティー

19:00 閉会

【20周年記念講演会&懇親会】 15:00 ~
19:00

会費: 10,000円 (事前振り込み)*フレン
チレストランアラスカのお料理付き

<講演会> (会場: 同ビル10階ホールA
=総会と同じ)

15:00 ~ 記念講演 1 「江戸のまちづくり・
城再建」: 一龍齋貞花師匠

15:30 ~ 記念講演 2 「史上最大の江戸
城のリユースと活用」: 三浦正幸先生



江戸城天守再建シンポジウム(仮)

主催: 一般社団法人 IKIZAMA / 後援: 認定NPO 法人江戸城天守を再建する会

1: 趣旨目的

江戸城天守再建築城において、最も重要な
民意創出のため、「認知向上」「価値向上」「活
動量向上」の3つを柱としたシンポジウム
を開催します。

2: 開催概要

とき: 2025年4月19
日(土) ※徳川家康公命日の2日後
会場: 綱町三井倶楽部(港区三田綱町) 会費:
25,000円(一般)、20,000円(会員)

3: シンポジウム内容

江戸城の持つ価値を各分野 (ART、建築、
歴史文化、経済、まちづくり等) から掘り
起こすゲストを招いて、パネル・ディスカッ
ションを行います。

4: スケジュール

(予定) [11:30] 開会 [11:50]

シンポジウム [12:20]

交流会 [13:45] 閉会



江戸文化サロン「歴史散策シリーズ」第2回『東御苑お花見歴史散策』

日時: 3月23日(日) 13時~15時30分

集合: 大手門前 [正面に向かって手前左側の小広場]

講師: 当会顧問・江戸歩き作家黒田涼氏

会費 (現地払い): 会員 3,000円・一般 4,000円

(※当サロン初回参加者は3,000円)

申込み: 担当木川まで

(MAIL: kigawa.spacek@gmail.com)

TEL: 070-6988-6975)

竹下大学 江戸時代の果物②

カンキツ

竹下大学
品種ナビゲーター
当委員会

約五十年前には日本人は温州みかんを今の二〇倍食べていた

江戸っ子が紀州みかんの虜だったからなのでしょう。日本人は紀州みかんの子供である温州みかんが大好きです。温州みかんの消費量が最も多かったのは、一九七三年（昭和四八）。じつに国民一人あたりで年間二・三キログラムも食べていました。けれども二〇二二年は二・四グラムと、五〇年間で一〇分の一にまで減ってしまっています。温州ミカンを箱買にする習慣がなくなり、カビる前に食べきらなきゃというプレッシャーから解放された影響も大きいそうです。

紀伊国屋文左衛門の蜜柑船は都市伝説

紀州みかんといえば、和歌の浦から怒涛逆巻く嵐の中を江戸まで運んだ、紀伊国屋文左衛門の蜜柑船のエピソードが浮かびます。ただ、これは都市伝説の類で、紀伊国屋文左衛門がミカンに関わった史実はありません。紀州出身、一代で巨万の富を築いた紀文と紀州みかんとを結びつけたフィクション

ンなのです。

命がけの挑戦だったのは事実ですが、実際に四〇〇箱（約六トン）の船運を成功させたのは滝川原村の藤兵衛で、一六三四年（寛永一）のことでした。これ以降、江戸には陸路で少量しか運ばなかった紀州みかんが、一気に庶民の味になったというわけです。

温州みかんは江戸時代初期には発見されていません。ところが、なぜか普及したのは明治一〇年代になってからでした。温州みかんとは紀州みかんを比べた際に、私たちが現代人の感覚では小さくてタネの多い紀州みかんの方が圧倒的に支持され続けてきた理由がわかりません。それは当時ならではの強い心理的抵抗感のせいでした。貴賤を問わず子宝の授かりを渴望していた時代、タネが入らない異常な果実をあえて食べるもの好きなどいかなかったのです。

カンキツひとつにも深い訳がある

「青物魚軍勢大合戦之図」(図参照)は一八五九年(安政六)に歌川広景が描いた風刺画です。コレラに罹りやすくなると考えられていた魚介類ではなく、罹りにくく

なるとされていた野菜と果物をもっと食べるようにとの、ある種の公共広告といってもよいでしょう。この絵が世に出た前年、江戸ははじめてコレラのパンデミックとなり、江戸だけで死者三〜四万人に達したとされています。

当然青物軍が優勢に描かれています。ただ、風刺画というからには別の意味も込められています。それぞれの大将は、青物軍がミカンで魚軍がタコになっていますが、蜜柑太夫は紀州藩の徳川福を、蛸入道八足は水戸藩の徳川斉昭を示しています。すなわち幕府側の紀州徳川家と尊王攘夷派の水戸徳川家の対立を描いた絵だったので、それだけこの政争に庶民の関心を寄せていたのでしょう。

青物軍の下の方には、ブドウ(甲斐武道之助)、マクワウリ(宇利三郎)、スイカ(水瓜赤種)の顔も見えます。それぞれの名産地である甲府藩、美濃大垣藩、尾張藩が幕府側についていたことを表しています。

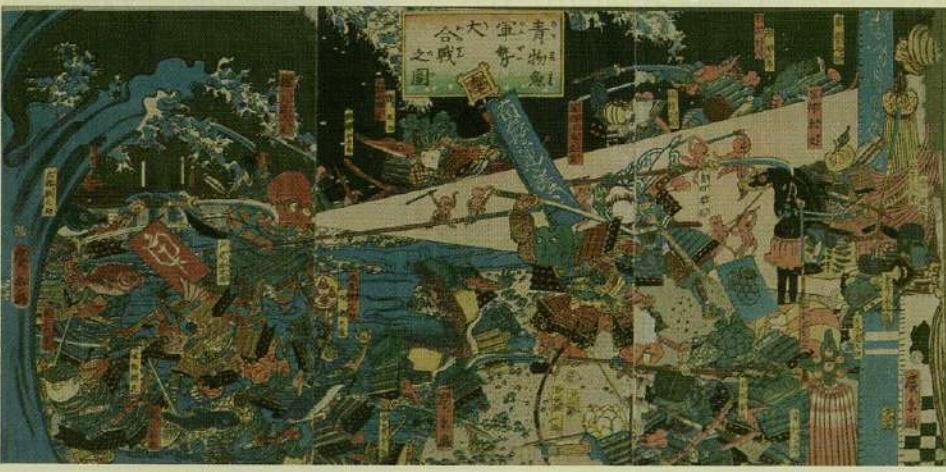
これより五年ほど時を遡った一八五四年(嘉永七)、ペリー二度目の来航で日米和親条約が調印されました。締結交渉開始時に、幕府は横浜でペリー一行に盛大な饗応

膳を振舞っています。前菜にあたる口取り肴では、紀州みかんよりもおいしくないクネンボ(九年母)という古い品種が使われました。ひよっとしたら、外国人に対して紀州みかんを使うわけにはいかなかったためなのかもしれません。

夏みかんに救われた旧萩藩

萩の乱は、元長州藩士前原一誠が一八七六年(明治九)年に起こした、明治政府に対する不平士族の反乱です。反乱はわずか六日で鎮圧され、旧長州藩士たちの生活はさらに苦しくなりました。この状況を救ったのが、一八六二年(文久二)に萩での商業生産が始まっていた夏みかんでした。萩の乱の翌年、小幡高政は市中のありとあらゆる場所に夏みかんを植えさせ、特産品としての生産体制を整えました。その結果、明治三〇年代には萩町の総予算の八倍以上の金額を夏みかんが稼ぎ出す大成功を収めたのです。

この夏みかん、一七七〇年代に萩近くの海岸に流れ着い



「青物魚軍勢大合戦之図」
出典：国立国会図書館

黒田涼の江戸の東京歴史講座 江戸・東京の災害遺構をたどる ⑥

「最終回」治水で成り立った江戸

最終回となる6回目は、江戸の街を成り立たせた治水遺構を紹介しします。

利根川の乱流地帯だった江戸東部

江戸は西側の武蔵野台地と東側の東京低地という異なる地形にまたがって広がっています。江戸城は台地東端に築かれ、両方に睨みを効かせる位置でした。東京低地はかつては利根川の河口部であり、洪水時には大乱流地帯となる低湿地でした。経済の中心である日本橋・京橋・銀座などはこの大乱流地帯に面しており、しばしば洪水の被害を受けました。

江戸の城下町を守るため、幕府はこの江戸の東半分の洪水対策を進めます。よく知られる利根川東遷は、必ずしも洪水対策で進められたわけではありませんが、結果的に利根川の水を太平洋に直接流すことで、江戸への水量を減らしました。そして多くの治水施設が、何重にも江戸の中心街を守る仕組みが出来上がっていきます。

荒川区東部、隅田川の右岸には砂尾堤という堤防がありました。その起源は中世に遡るとも言えます。南千住七丁目の山王清兵衛と

いう祠はその上に建つといい、向かいに堤についての解説板があります。

対岸の足立区千住地区には今も「墨堤」通りが走ります。この堤防は「掃部堤」とも呼ばれ、江戸時代初期に地域の有力者だった石出掃部吉胤が徳川家康の許可を得て築いたといわれています。千住仲町の源長寺に墓があります。

墨堤はそのまます向島方面にも築かれ、東向島三丁目の墨堤通り裏には、高さ二、三メートルほどの堤防の土塁が今も残ります。現在の隅田川からはかなり離れ、河原が広がったことがわかります。

洪水を「しのいだ」江戸の街

これらの堤防はさほどの高さはなく、上流からの水を受け止めて上流側を氾濫させることで下流の江戸を守りました。上流地域は大雨が降ったら浸水するのが前提で、北区岩淵町あたりには、家屋を守るため敷地を嵩上げた水屋の石垣が今も残ります。

また吉原への通り道として知られる日本堤は、上流からの洪水を南の江戸市街に流さないための防壁でした。ここが破られると今度

作家・江戸歩き案内人
黒田涼
当会特別顧問

は外堀として掘削された神田川が洪水を受け止めました。川の南側には大きな堤が築かれ、これは江戸城外堀の防壁であると同時に、堤防でもありました。

このように江戸中心街は、何重もの堤防で守られていましたが、江戸時代の治水技術では、現代のように洪水を完全に防ぐのは難しく、水を「しのぐ」仕組みもありました。両国駅を降りた西側の隅田川屈曲部には、水の勢いを削ぐための木杭が数多く川に打ち込まれ、「百本杭」呼ばれました。両国橋の袂に解説板があります。

また隅田川の両岸には多くの大名屋敷が作られ、庭園の池は隅田

川と繋がる潮入の池でした。これは大雨の際には隅田川の水を引入れる調節池の役割を果たし、洪水を軽減したといえます。旧安田庭園などに解説板があります。

水と戦い続ける東京

明治以降は江戸時代の受け流す治水から、強固な土木施設や大規模な新流路開削で洪水を防ぐ方向に変わります。その最大の成果が荒川の開削です。荒川は隅田川の下流部に新たな水路を切り開き、洪水を「無くす」ことを目的に工事が始まりました。

一九一一年に着手され、通水は一九二四年に始まったので昨年は荒川通水一〇〇年の記念の年です。この時に荒川の水が洪水時に隅田川に流れ込むのを防ぐために設けられたのが岩淵水門で、完成当時の旧水門は赤水門として保存され、国の重要文化財です。

東京メトロの赤羽岩淵駅から歩いて約二〇分。その手前には知水

資料館という荒川治水についての無料の展示館があります。現在はより巨大な赤水門が都心を守っています。隅田川の堤防は、壁のようなく「カミソリ堤防」から順次、より高く広々としたスーパー堤防に変わっています。北区豊島五丁目のかつて天狗の鼻と呼ばれた隅田川屈曲部跡のスーパードーム堤防には、古い堤防壁が切り取られて保存されています。

東京都が進めるスーパー堤防は、国の進めるものとは規格が違い、現実的な事業です。その最初のものは一九八五年に中央区新川で、国に先駆けて整備されました。堤防上の地図にそのことが解説してあります。近年は温暖化の懸念でさらなる堤防や治水対策の強化が必要で、江戸・東京はその最高の立地と引き換えに、これからも水との戦いを続けなければならぬでしょう。

★次号(春季号)から、NHK大河ドラマの「べらぼう」歴史散策を黒田氏が連載で紹介してくれそうです。

砂尾堤の解説板



墨田区東向島に残る江戸期の堤防



住居敷地を嵩上げた水屋の石垣



洪水時に調節池となった旧安田庭園の潮入の池

モニュメントとして残されたカミソリ堤防



1924年建設の旧岩淵水門(赤水門)



スーパー堤防の掲示板



石出掃部吉胤之墓



歴史に残る名城の天守

第30回 高松城天守

三浦正幸

広島大学名誉教授
当会特別顧問

天守の来歴

高松城は、豊臣系外様大名の生駒親正が讃岐（現在の香川県）一国の十七万石を与えられ、天正十六年（一五八八）に築城した平城であり同時に海城でもある。現存する天守台は、隅部の算木積がやや未発達であって、慶長七十五年（一六〇二）一〇）に生駒一正（十七万石）が築いたものである。その時に三重天守が創建された。

入母屋破風がないことが相違している。もちろん、絵画なので細部についてはあまり信頼できないし、屏風の作製年代も当てにはならない。

材も積極的に再利用されたものであって、完全な新築というよりは大々的な改築だったと言える。

た。唐造だったので、最上階の平面がその下階より外側に張り出し、下階の屋根を省略していたので、実質的には四重天守より大きかった。地階は発掘調査によって礎石が出土しており、三間に二間半、すなわち十五畳大の部屋が田の字形に四室配されていたことが判明した。その四室のそれぞれ中央に掘立柱跡が見つかっている。生駒創建天守と松平造替天守は地階の間取りが同一であって、礎石も再利用されたものと考えられる。掘立柱跡については、創建天守の老朽化に対して掘立柱の支柱を加えて便宜的に補修したものと考えられる。したがって、寛文造替後には、その掘立柱は使われていない。なお、発掘調査によって、その柱穴から滴水瓦が出土したので、生駒時代の天守には滴水瓦が使用されていたことが分かった。二間半という中途半端な柱間は、慶長期の小倉城や佐賀城の天守でも見られるもので、後述するように小倉城を参考にしたという伝承は蓋然性が高い。

一階は、古写真および記録されている規模からすると、天守台から外側へ一間近く張り出した。唐造だったので、最上階の平面がその下階より外側に張り出し、下階の屋根を省略していたので、実質的には四重天守より大きかった。地階は発掘調査によって礎石が出土しており、三間に二間半、すなわち十五畳大の部屋が田の字形に四室配されていたことが判明した。その四室のそれぞれ中央に掘立柱跡が見つかっている。生駒創建天守と松平造替天守は地階の間取りが同一であって、礎石も再利用されたものと考えられる。掘立柱跡については、創建天守の老朽化に対して掘立柱の支柱を加えて便宜的に補修したものと考えられる。したがって、寛文造替後には、その掘立柱は使われていない。なお、発掘調査によって、その柱穴から滴水瓦が出土したので、生駒時代の天守には滴水瓦が使用されていたことが分かった。二間半という中途半端な柱間は、慶長期の小倉城や佐賀城の天守でも見られるもので、後述するように小倉城を参考にしたという伝承は蓋然性が高い。

生駒氏は寛永十七年（一六四〇）に生駒騒動（お家騒動）で改易され、その後城主となった親藩大名の松平頼重（水戸光圀の兄）によって正保四年（一六四七）頃に天守が修理された。天守台の発掘調査の際に天守穴蔵から掘立柱跡が四つ発見されたが、それは正保の応急修理で補加された支柱であって、その当時、天守一階の床梁が腐朽して支柱が必要になったものと考えられる。それ以降も天守の老朽化が進み、ついに寛文十年（一六七〇）に造替され、その天守が明治まで残っていた。造替の際には、天守台および地階礎石はほぼそのまま再利用され、古

高松城天守は明治初期の廃城にともなう城郭建築の破却を免れて残置されていたが、適切な修理や管理をなされずに放置されていたために老朽化が進み、明治十七年（一八八四）に取り壊された。明治中期に取り壊された天守は、高松城のほかには大洲城（愛媛県）があり、同様に老朽化が進んでいた松本城天守と松江城天守は、それとは対照的に民間の尽力によって修理され、現在は国宝に指定されている。

天守台上面（穴蔵周囲の石塁上）の発掘で、入側柱の礎石が発見されたので、その結果、入側の幅は二間よりやや短かったことが判明した。一階の中心部には、地階と同じ十五畳大の部屋が四室配されていたとするのが至当であろう。その場合は、その周囲に一間半幅の入側状の部屋が別に取り巻くことになった。平側に軒唐破風付きの大きな出窓があり華やかであった。一重目屋根の妻側に比翼入母屋破風を設ける。また、鮮明な古写真からは、軒下に約五尺間隔で方杖が並んでいたことが分かり、寛永期以降における側

た。唐造だったので、最上階の平面がその下階より外側に張り出し、下階の屋根を省略していたので、実質的には四重天守より大きかった。地階は発掘調査によって礎石が出土しており、三間に二間半、すなわち十五畳大の部屋が田の字形に四室配されていたことが判明した。その四室のそれぞれ中央に掘立柱跡が見つかっている。生駒創建天守と松平造替天守は地階の間取りが同一であって、礎石も再利用されたものと考えられる。掘立柱跡については、創建天守の老朽化に対して掘立柱の支柱を加えて便宜的に補修したものと考えられる。したがって、寛文造替後には、その掘立柱は使われていない。なお、発掘調査によって、その柱穴から滴水瓦が出土したので、生駒時代の天守には滴水瓦が使用されていたことが分かった。二間半という中途半端な柱間は、慶長期の小倉城や佐賀城の天守でも見られるもので、後述するように小倉城を参考にしたという伝承は蓋然性が高い。

一階は、古写真および記録されている規模からすると、天守台から外側へ一間近く張り出した。唐造だったので、最上階の平面がその下階より外側に張り出し、下階の屋根を省略していたので、実質的には四重天守より大きかった。地階は発掘調査によって礎石が出土しており、三間に二間半、すなわち十五畳大の部屋が田の字形に四室配されていたことが判明した。その四室のそれぞれ中央に掘立柱跡が見つかっている。生駒創建天守と松平造替天守は地階の間取りが同一であって、礎石も再利用されたものと考えられる。掘立柱跡については、創建天守の老朽化に対して掘立柱の支柱を加えて便宜的に補修したものと考えられる。したがって、寛文造替後には、その掘立柱は使われていない。なお、発掘調査によって、その柱穴から滴水瓦が出土したので、生駒時代の天守には滴水瓦が使用されていたことが分かった。二間半という中途半端な柱間は、慶長期の小倉城や佐賀城の天守でも見られるもので、後述するように小倉城を参考にしたという伝承は蓋然性が高い。

寛文造替の天守の詳細

寛文造替の天守は、三重四階、地下一階の層塔型、唐造であつ

た。唐造だったので、最上階の平面がその下階より外側に張り出し、下階の屋根を省略していたので、実質的には四重天守より大きかった。地階は発掘調査によって礎石が出土しており、三間に二間半、すなわち十五畳大の部屋が田の字形に四室配されていたことが判明した。その四室のそれぞれ中央に掘立柱跡が見つかっている。生駒創建天守と松平造替天守は地階の間取りが同一であって、礎石も再利用されたものと考えられる。掘立柱跡については、創建天守の老朽化に対して掘立柱の支柱を加えて便宜的に補修したものと考えられる。したがって、寛文造替後には、その掘立柱は使われていない。なお、発掘調査によって、その柱穴から滴水瓦が出土したので、生駒時代の天守には滴水瓦が使用されていたことが分かった。二間半という中途半端な柱間は、慶長期の小倉城や佐賀城の天守でも見られるもので、後述するように小倉城を参考にしたという伝承は蓋然性が高い。

一階は、古写真および記録されている規模からすると、天守台から外側へ一間近く張り出した。唐造だったので、最上階の平面がその下階より外側に張り出し、下階の屋根を省略していたので、実質的には四重天守より大きかった。地階は発掘調査によって礎石が出土しており、三間に二間半、すなわち十五畳大の部屋が田の字形に四室配されていたことが判明した。その四室のそれぞれ中央に掘立柱跡が見つかっている。生駒創建天守と松平造替天守は地階の間取りが同一であって、礎石も再利用されたものと考えられる。掘立柱跡については、創建天守の老朽化に対して掘立柱の支柱を加えて便宜的に補修したものと考えられる。したがって、寛文造替後には、その掘立柱は使われていない。なお、発掘調査によって、その柱穴から滴水瓦が出土したので、生駒時代の天守には滴水瓦が使用されていたことが分かった。二間半という中途半端な柱間は、慶長期の小倉城や佐賀城の天守でも見られるもので、後述するように小倉城を参考にしたという伝承は蓋然性が高い。

一階は、古写真および記録されている規模からすると、天守台から外側へ一間近く張り出した。唐造だったので、最上階の平面がその下階より外側に張り出し、下階の屋根を省略していたので、実質的には四重天守より大きかった。地階は発掘調査によって礎石が出土しており、三間に二間半、すなわち十五畳大の部屋が田の字形に四室配されていたことが判明した。その四室のそれぞれ中央に掘立柱跡が見つかっている。生駒創建天守と松平造替天守は地階の間取りが同一であって、礎石も再利用されたものと考えられる。掘立柱跡については、創建天守の老朽化に対して掘立柱の支柱を加えて便宜的に補修したものと考えられる。したがって、寛文造替後には、その掘立柱は使われていない。なお、発掘調査によって、その柱穴から滴水瓦が出土したので、生駒時代の天守には滴水瓦が使用されていたことが分かった。二間半という中途半端な柱間は、慶長期の小倉城や佐賀城の天守でも見られるもので、後述するように小倉城を参考にしたという伝承は蓋然性が高い。

一階は、古写真および記録されている規模からすると、天守台から外側へ一間近く張り出した。唐造だったので、最上階の平面がその下階より外側に張り出し、下階の屋根を省略していたので、実質的には四重天守より大きかった。地階は発掘調査によって礎石が出土しており、三間に二間半、すなわち十五畳大の部屋が田の字形に四室配されていたことが判明した。その四室のそれぞれ中央に掘立柱跡が見つかっている。生駒創建天守と松平造替天守は地階の間取りが同一であって、礎石も再利用されたものと考えられる。掘立柱跡については、創建天守の老朽化に対して掘立柱の支柱を加えて便宜的に補修したものと考えられる。したがって、寛文造替後には、その掘立柱は使われていない。なお、発掘調査によって、その柱穴から滴水瓦が出土したので、生駒時代の天守には滴水瓦が使用されていたことが分かった。二間半という中途半端な柱間は、慶長期の小倉城や佐賀城の天守でも見られるもので、後述するように小倉城を参考にしたという伝承は蓋然性が高い。

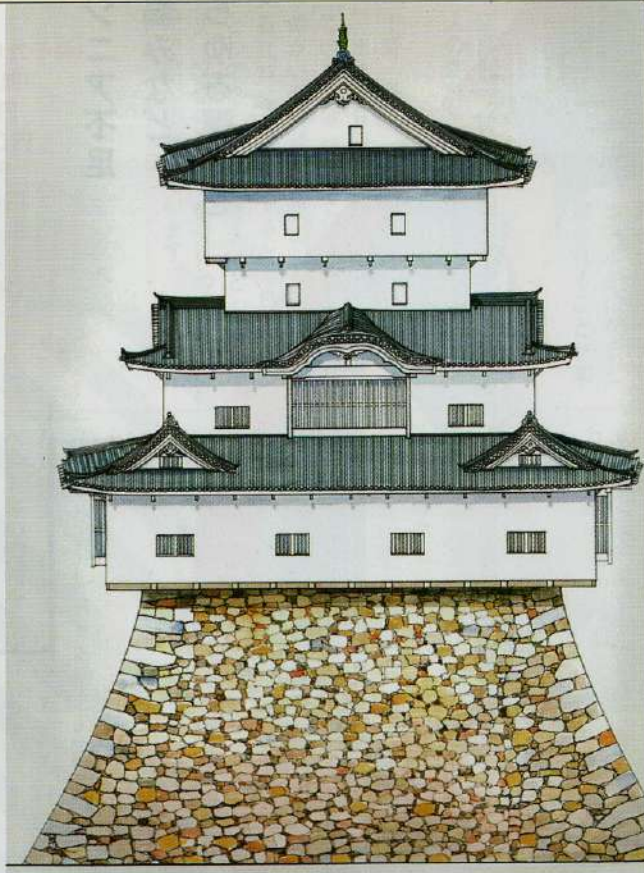
柱を密に立てる耐震を考慮した新しい技法が窺える。

二階(二重目)は、平九間に妻八間と大きく通減し、妻側には比翼入母屋破風の間を突き出し、また軒唐破風付きの出窓を設けていた。二重目屋根の平側に比翼入母屋破風を設ける。三階は平六間に妻五間で、平側に比翼入母屋破風の間を突き出す。三階には屋根がなく、その上に四階が張り出していた。四階(三重目)は、平七間に妻六間で、周囲の半間幅の入側(縁側)が外側へ張り出す。四階身舎および三階の規模は、地階の四室を合わせた規模と等しく、したがって各階は入側だけで通減していたと考えられる。四階平側には、城郭史上最大の幅二間の華頭窓を開き、三重目の屋根に軒唐破風を飾っていた。

通常の五重天守よりも巨大な一階平面をもちながら三重天守とするために、史上最大の通減率と唐造が適用されて、均斉のとれた美しい造形が生まれた。軒唐破風付きの出窓と比翼入母屋破風を平と妻で交互に設けた巧みさや史上最大の華頭窓も卓越した意匠である。日本の天守の白眉と高く評価される。

唐造であること、一階が天守台より張り出すこと、二間半の中途半端な部屋があることは、小倉城天守と一致しており、小倉城天守を参考にして高松城天守を建てたという伝承には首肯できる。しかしながら、それらの特徴は生駒創建天守に既に存在したものらしく、生駒一正の

事跡が松平頼重の頃の事と誤伝された疑いがある。小倉城天守の唐造の層塔型を生駒氏の天守が採用していたことから、その天守の創建年代は慶長十五年頃と幅を狭めて想定できる。



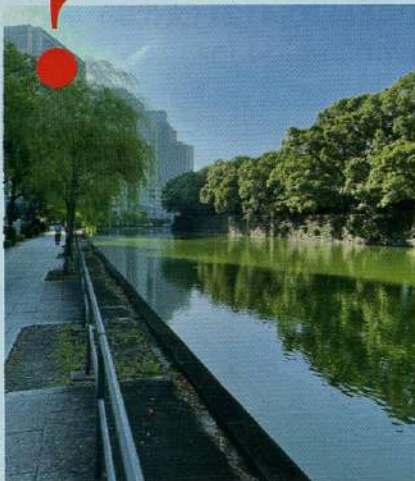
高松城天守復元図

続きは動画をチェック!

日本の建築史を専門とする
広島大学名誉教授／三浦正幸博士の
江戸城の解説動画をこちらから
ご覧いただけます。



江戸城クイズ④ 「江戸城クイズ」第4回です。奮って挑戦してください。



大手濠

1—江戸城本丸御殿はその役割で、大きく3つに分けられる。歴代将軍が日常生活を送り、政務をとっていたのはどこか。

(ア) 表 (イ) 中奥 (ウ) 大奥 (エ) 裏

2—明暦3年(1657)の大火を機に創設された消防組織は次のどれか。

(ア) 大名火消 (イ) 定火消 (ウ) 店火消 (エ) 町火消

3—徳川御三卿とは、8代吉宗の三男宗武を祖とする田安家、四男宗尹を祖とする一橋家と、9代家重の次男重好を祖とする何家をいうか。

(ア) 松平家 (イ) 結城家 (ウ) 保科家 (エ) 清水家

4—江戸幕府は文政元年(1818)に御府内(江戸)の範囲(朱引き)を公式に定めた。次のうち、朱引き内に該当するのは、何処か。

(ア) 王子稲荷 (イ) 中野宝仙寺 (ウ) 亀戸天神 (エ) 目黒不動

5—夕立を四角に逃げる()、これは江戸城下の特徴を詠み込んだ川柳である。()に入る地名は次の何処か。

(ア) 広小路 (イ) 飛鳥山 (ウ) 丸の内 (エ) 駿河町

*解答は次号でお知らせします。第3回 回答は回答はP2に掲載しました。出題▶当会理事・塚本一夫(江戸文化歴史検定一級/日本城郭検定一級)

江戸城天守を再建する会 入会案内



367年前に焼失した江戸城天守を、東京のシンボルとして甦らせたい。そんな思いを共有する人たちが集うNPO法人です。2006年NPO法人設立。当会主催の各種イベントや講演会のご案内をするほか、会報「かわら版」(年4回)をお届けします。

会 長：太田資暁 (太田道灌公18代子孫)
理事長：島田昌幸 (テレビ東京顧問)
年会費：正会員 (個人)10,000円
正会員 (法人)100,000円
賛助会員 (個人)3,000円
賛助会員 (法人)30,000円

入会手続

- 1 ホームページ(クレジットカード)
 - 2 ゆうちょ銀行・払込取扱票
- ▶詳しくは当会事務局へお問合せください。

八木 香 (長野県)
東京は世界中から観光客が集まる人気の地です。随所に美しいビルやそれを取り囲む公園、美味しいレストランはありますが、日本の歴史文

歴史と文化を象徴する存在として江戸城天守を再建したい

◆投稿、提案、
当会イベント情報などを
随時掲載します。



化を象徴する存在に欠けています。ぜひ江戸城を再建させたいです。

清水門石垣に残る刻印や
櫓にある青海波模様が好きです！

諸星 天音 (神奈川県、中学三年生)
江戸城は天守台だけでもとても大きなスケールに圧倒される魅力的なお城だと、訪れるたびに感じます。特に私は清水門の石垣に残る刻印や、櫓などにある青海波模様が好きです！天守が再建されると、より迫力のある日本のシンボルになると思いますので、再建されることが楽しみです！

江戸城再建を願う行動する
人の存在に驚いています。

上野 秀一 (東京都)
まさか江戸城再建を願って行動している人々がいるとは驚きでした。侍がいた最後の時代のシンボルである江戸城が復活すると、日本人にとっても、訪日外国人にとっても歴史・文化の学びや観光につながるはず。応援しています。

事務局 からの お知らせ



「請願署名」にご協力ください
一万筆の請願署名を今年度の目標としています。

会員の皆様には、「ご家族、ご友人の皆様にも、この請願署名へのご協力をお願いしていただきます。」

新規会員の勧誘にご協力を

当会の活動は主として正会員、賛助会員の会費によって運営されています。本年も新入会員二〇〇名を目標としています。ご協力ください。

住所変更届けのお願い

ご住所・電話番号などが変更した場合、ファクスや電話で早めにご連絡ください。会からのお知らせが届かなかつたりします。

メールアドレス登録のお願い

メールアドレスをお持ちの方は事務局にメールをお送りください。イベント等の情報をお届けします。

会費納入のお願い

それぞれの会員の皆様のご入会前月に次年度の「会費納入のお願い」をお送りしています。ご協力のほどお願い申し上げます。

年会費納入法

◆年会費カード決済
会費納入や寄付金の決済は、クレ



ジットカードにも対応しています。カード決済ご希望の方は、当会ホームページからどうぞ。
自動継続をご希望の方は、HPの「カードによる継続会費のお支払い」からお手続きください。

◆年会費自動払込(ゆうちょ銀行)

当会では、ゆうちょ銀行口座からの年会費自動払込を行っています。ぜひご利用ください。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

認定NPO法人の当会への
寄付金は
税の控除が受けられます。

優遇措置を利用して
ご寄付にご協力ください。

新規入会の皆様、
歓迎します

ご寄付くださった皆様、
ご協力ありがとうございました



※「かわら版」への投稿、提案、お問合せは、事務局宛に郵便・FAXまたはメールにてお願いします。



【事務局】

〒101-0065
東京都千代田区西神田 2-5-7-505
E-mail=info@npo-edojo.org
事務局長 / 浅井純一、山本りか